

1 Tbps (10Gbps×100WDM) 大洋横断伝送実験

1999年(平成11)、光ファイバ1本当たり1Tbpsの信号を、6,200km(大西洋横断に相当)以上にわたって実用可能な信号品質で伝送することに、世界で初めて成功した。また、2000年には、約8,000km(太平洋横断に相当)の伝送にも世界で初めて成功した。このシステム試験では、正分散と負分散を持つ新しい光ファイバの組み合わせによる波長分散特性のフラット化や、増幅帯域が30nm以上を有する広帯域光増幅器などの新規技術が導入された。これらの伝送実験の結果、テラビット大洋横断システムに関する設計指針を得た。

1Tbps(テラビット)は1,000Gbpsに対応し、TPC-5CNの200倍、東京都民全員(1200万回線)の同時通話が可能な超大容量である。

出典：KDD社史